

がん検診 あなたを守る 新習慣

早く「がん」を見つけてるために

不治の病と言われてきた「がん」ですが、最近ではかなり治療成績が高くなりました。その理由は、がん検診や人間ドックなどの精度が向上し、早期に発見することができるようになったことや医療技術の進歩などによるためです。

早く発見して、治療を行うためにも「がん」のことをよく知り、定期的に検診を受けましょう。

町の死亡原因の1位は「がん」

がんは、誰もがかかりうる身近な病気です。

本町における平成29年の死亡原因の1位は、「がん」となっています。がんの死亡率は、40歳を過ぎたところから上昇し始め、高齢化とともにその発症率は高くなっていきます。

近年は、検査の方法や、がん治療の技術が向上していることから、がんにかかったからといって、人生も仕事も終わりという時代ではなくなりました。また、体への負担が少ない治療方法も確立され、がんと共に生き、働く時代と



も言われています。

こうしたことから、がんを恐れ過ぎず、がんが町における死亡原因の1位であることを受け止め、予防や、検診での早期発見に努めることこそ

が大切なのです。

小さいうちに見つけ早期治療

がん検診の目的は、がんを早期に発見して適切な治療を行い、死亡率を下げることで、症状が出るころには、がんはかなり進行しています。

がんの種別ごとの生存率 出典：国立がんセンター生存率調査

がんの種別	病期（ステージ）（%）				生存率（%）	
	1期	2期	3期	4期	3年生存率	5年生存率
胃	94.6	68.5	45.1	9.0	75.6	71.6
肺	81.2	46.3	22.3	5.1	50.8	40.6
大腸	95.4	88.1	76.5	18.7	78.7	72.9
乳房	99.8	95.9	79.9	37.2	95.2	92.5
子宮頸部	95.3	78.7	61.4	25.2	79.6	75.3

※病期は、がんの進行度を表す指標で、4期が最も進行している状態を表します

症状が出る前の小さいうちに見つけ、治療を始めることで生存率は高くなります。

精密検査とは？

検診の結果、精密検査が必要と判定された場合には、必ず精密検査を受けましょう。

精密検査の判定は、「がんの可能性を含め、病気がありそう」と判断されたということです。そのため、より詳しい検査を行い、本当に病気があるかどうかを調べる必要があります。「症状が無いから」「健康だから」といった理由で精密検査を受けなければ、そもそも検診で見つかるはずの「がん」を放置してしまうことになりかねません。

昨年度の本町における精密検査の受診状況は左図表のとおりです。乳がん以外の検診

精密検査受診状況 (平成30年度健診結果から)

がん検診	精密検査受診率（%）
胃	62.5
肺	78.0
大腸	65.0
乳房	100.0

※子宮頸部は該当なし

すごいな！むし歯のない子



渡部 理央那ちゃん (上野尻2)



長谷川 琴子ちゃん (縄沢)



斎藤 颯くん (西原)

7月18日、3歳児3人を対象に健康診査を行った結果、皆さん、むし歯はありませんでした。

では、精密検査の受診率が100%ではありません。病気をなるべく早く見つけるため、精密検査が必要と判定された場合には早めに検査を受けてください。

精密検査の内容や検診結果などについては健康増進課・健康支援係までお気軽に相談ください。